

畜産会 経営情報

主な記事

- ① セミナー経営技術
大家畜経営の経営管理 ― 日常の記帳からの展開 ― その2
- ② おらが故郷の経営自慢
ガンバルかあちゃんの牛飼い奮闘記
- ③ あいであ&アイデア
吊って、削蹄 ― ホイルロードを活用して安全削蹄
- ④ 牛肉・豚肉、子牛市況

法人 中央畜産会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目26番5号
虎ノ門17森ビル(15階)
TEL.03-3581-6685 FAX.03-5511-8205
URL <http://jlia.lin.go.jp/>
E-mail: jlia@jlia.jp

セミナー

経営技術

大家畜経営の経営管理 ― 日常の記帳からの展開 ―

その2 青色申告と法人化

志渡 和男

記帳による効果とその活用

今回は特に畜産経営の経営管理（詳しくは3回目に説明します）を行うためには複式簿記の記帳が必要であるとして、複式簿記を記帳することをお薦めしました。複式簿記は難しいものと思いがちですが、何もそれほど難しいものではありません。簡単な決まりを覚えるだけで誰でも記帳することができます。今はパソコンなど便利なものがありますので、よりいっそう記帳が楽になりました。皆さんも是非とも取り組んでください。皆さんの身近な普及センターや農業委員会またJA

でも研修会を行っているところがあります。確認の上、研修に参加してください。

今回は、その記帳の結果をより効果的に生かす手段として、青色申告と法人化について述べることにします。

青色申告

1. 青色申告とは？

経営を知るために記帳することで、自分の経営内容がよく分かることはもちろん一番大事なことです。この記帳の結果に基づいて税務申告をすると、税金が安くなるなどの有

ご案内：本誌は上記URLにアクセスして下されば、インターネットでご覧いただけます。

利な活用方法があります。それは、複式簿記で農業経営を記録し、その結果を税務申告書に添付することによって65万円が所得から控除されるなど、大きな特典を得られる方法です。どうせ記帳するならば青色申告をしてこの特典を受けることが有利といえます。

所得税の申告方法は、今までは経営規模や収入金を基にした標準課税や、収入金課税による申告が行われていましたが、現在は記帳義務化や収支計算に基づいて申告するように変わってきました。これは、農業も本来あるべき記帳に基づいた所得を計算し、それを基にした申告体制になったと考えるべきだと思います。

この青色申告をするには特に難しいことはなく、日々の経営の金銭の動きを一定の帳簿に記録をし、その記録を基に所得と税額を計算し、申告をするという制度です。この申告は通常の収支計算による申告（白色申告）に対し、決算内容に確実性があることから、数々の特典が与えられています。

2. 青色申告の主な特典

青色申告には数々の特典がありますが、その主なものについてあげると次のようなものがあります。

- ① 特別控除として65万円または10万円が所得から控除できます

青色申告者が「正規の簿記の原則」（一般には複式簿記）による記帳によって申告する際に損益計算書の他に貸借対照表を添付すれば、17年分からは特別控除として65万円（簡

易帳簿から貸借対照表を作成した場合の45万円は17年度から廃止されます）、簡易帳簿の場合では10万円を差し引く（ただし所得の範囲内）ことができます。

国税の納税額が税率10%の場合で6万5千円、20%の場合で13万円安くなることとなります。したがって、この際にぜひとも青色申告をすることをお薦めしたいと思います。

- ② 専従者に必要経費として給与を支払うことができます

家族であっても事業に専従している場合には、通常の労働者と同様に給与を支払うことができ、それが必要経費として認められることになります。白色申告の場合の専従者控除は、年間で50万円、配偶者の場合には65万円が認められるだけですので、有利性は大きいといえます。

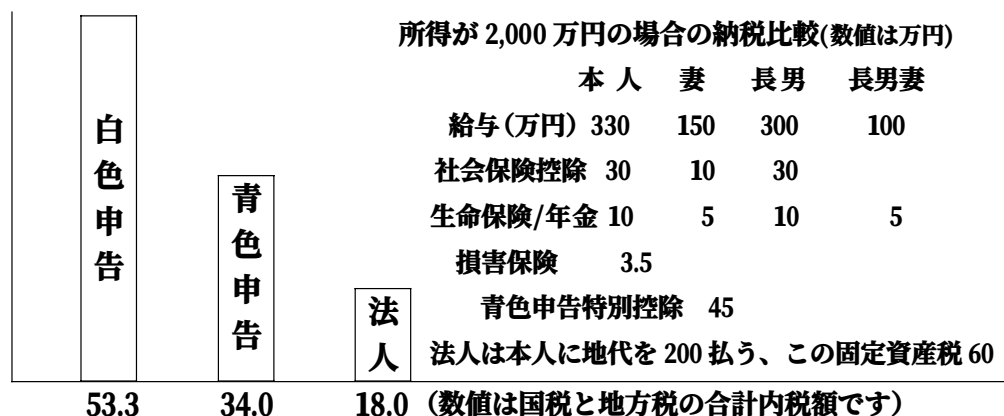
- ③ 青色申告者は特別償却や税額控除ができます

青色申告をしている場合には特典として、通常の減価償却費の他に特別償却や割増償却、または税額控除をすることができるものがあります。これによって減価償却を早く行い、資金を有効に活用することができます。

- ④ 欠損金が出たときには繰り越しをするか前年の税金還付を請求できます

赤字が生じた場合には翌年以降3年間にわたって繰り越すことができ、その金額を翌年以降の黒字から順次控除することができます。

図－1 白色申告・青色申告・法人の納税比較



うな書類をその年の 3 月 15 日までに税務署長に提出して手続きをすることが必要です。

① 所得税の青色申告承認申請書

また、前年に納税があった場合には、前年分の税金の還付を請求することができます。これは欠損金の繰り越しとの選択となっています。

そのほかにもまだ特典がありますが、ここに掲げたものだけでも白色申告に比べると相当の有利性があるといえます。

3．青色申告のできる人

所得には10の種類がありますが、そのうちで青色申告をすることができるのは、①事業所得、②不動産所得、③山林所得のある人で、現金出納帳などの帳簿類に記録し、その帳簿類を保存することを税務署長に届け出て、承認を受けることが必要です。農業所得は事業所得に入りますので、もちろん青色申告をすることができます。

また、農業所得と合わせて不動産所得もある人は、農業だけではなく、不動産所得についても青色申告をすることになりますので、不動産についても記帳が必要となります。

4．青色申告の手続き

青色申告をしようとする場合には、次のよ

「所得税の青色申告承認申請書」は青色申告の承認を受けるための書類で、これは申請主義ですので、特別な理由で却下の通知がない限り、承認されたものとみなされます。最初の年にだけ手続きをすればよく、一度承認を受けると取りやめの手続きをしない限り、以降継続して青色申告の適用を受けることになります。

② 青色事業専従者給与に関する届出書

専従者に給与を支払おうとする場合には、この届出書を税務署長に提出しなければ、支払った給与が必要経費として認められません。支払う給与の額を「青色事業専従者給与に関する届出書」に記入して、青色申告承認申請書と同時に提出します。

③ 源泉所得税の承認に関する申請書

給与を支払う場合には、事業主はその給与に対する源泉所得税を毎月差し引いて、翌月の10日までに納付しなければならないことになっています。給与の支払いを受ける者が10

人未満の場合には、「所得税の青色申告承認申請書」を税務署長に提出すれば、1月～6月分は7月10日までに、7月～12月分は翌年の1月10日までにというように、年2回の納付によって簡略化をすることができます。この書類も同時に提出すると良いでしょう。

このように青色申告をするには難しい手続きはいりません。誰でも自分で手続きをすることができます。どうせ記帳するならば有利な青色申告をしてください。

法人化

1. 法人化のメリット

最近は法人化が脚光を浴びて、農業経営を法人化する方が増加しています。国でも政策として法人化について更なる支援をすることが方針として示されています。

記帳することによって経営内容が分かるようになると、さらにいっそう経営の安定と向上を図るために法人化する傾向が増加しています。では、法人化することによるメリットは何かをあげてみましょう。

制度上のメリット

① 税金が軽減化されます

ア. 役員や家族従事者に報酬や給与を支払うことができるため、課税所得が軽減されます。また、報酬や給与は給与所得控除などがあるため、全体での納税額が軽減化されます（図－1参照）。

イ. 退職金を支払うことができます。

ウ. 将来の相続対策にも活用することができます。

エ. 農業生産法人は肉用牛の免税適用が受けられます。

② 制度資金の融資額が個人よりも拡大されます

③ 農業生産法人の特例の適用を受けることができ、経営を有利に展開することができます

④ 社会・労働保険の加入で雇用労働の導入や雇用の安定化が図れます

制度外のメリット

① 家計と経営の分離が明確となり、経営体として確立します

② 経営が合理的に運営されます

③ 信用の増大により取引が増大します

④ 後継者の確保が有利となります

⑤ 都合の良い時期に決算時期を選択することができます

2. デメリット

法人化には有利な面がある反面、一方では事務処理の煩雑さや金銭面での負担の増加などがあります。しかし、これらは法人として当然の義務や負担として生ずるものがほとんどです。これらのことを十分に熟知して取り組む必要があります。

① 規模が小さいと負担等が増加します

経営の展開など今後の事業を有利に活用するなど、活用の方法がありますが、税金面からでは所得が1000万円を超えた時が法人化を検討すべき時点と思います。

② 農地の権利を取得するには多額の税負担

図－2 企業化への発展過程

農業経営の発展段階は次のようにみることができます

発展 の 順序	経営形態	経営実態・会計	税務申告方法
1	個人経営前期	ドンブリ勘定 家計と経営未分離	標準課税
↓	2	個人経営後期	収支計算 家計と経営分離のめばえ
↓	3	企業的計算	複式簿記・個別法人 経営と家計の分離（預貯金等の区分明確化） 企業的会計の独立
↓	4	企業的経営	複式簿記・同族法人 企業的組織運営の確立（職能の分化） 個人利用・作業→共同利用・作業、組織化
↓	5	会社企業	複式簿記・同族法人・非同族法人 組織的運営の確立 資本と労働の階級分化

が発生する場合があります

農地価額の高い都市地域では譲渡所得税、相続税などの関係に留意が必要です。

- ③ 社会保険などの加入に当たっては、経費負担が必要です
- ④ 運営経費や税理士顧問料などの経費負担が増加します

3. 法人化のねらい

国では農業経営の法人化に対して大きな期待を持っており、支援活動をしています。それは、法人化をすることによって次の点に期待しているためです。

- ① 農業経営の改善を図る手段として有効であること

家計と経営が明確に分離され、経営基盤が整っているため、経営の改善が行われやすく企業としての進展に期待ができること。

- ② 他産業並みの就業条件で担い手確保になること

労働条件が整備され雇いが確保される等、農業が魅力のある職業となることが期待されること。

最近、農業経営も法人化する傾向が多く見られます。法人化をするに当たっては、単に法人化を

すれば経営が良くなるというものではありません。経営者自身が法人化を目指す目的を明確に捉え、法人化によって経営の確立を図り、自らの力によってメリットを享受することが大事です。このためには、経営者自身が経営管理能力を持つなどの条件が必要となります。そのためには、まず何よりも複式簿記についての理解が欠かせない要件となります。

3回目の次回は「今後の経営管理に求められるもの」として、どのように経営管理を進めるのかについて述べる予定です。

（筆者：（社）全国農業改良普及支援協会専門委員・農業経営コンサルタント）

おらが故郷の
経営自慢

ガンバルかあちゃんの 牛飼い奮闘記

—— 岩手県花巻市 佐々木ミヨ子さん ——

佐 藤 彰

はじめに

佐々木さんの住む花巻市は、岩手県のほぼ中央部に位置する、人口およそ7万3000人の平坦で水田の多い町です。

花巻市は、宮沢賢治のふるさととしても知られています。賢治は童話や詩の作者であり、さらに教師、科学者、そして農民でもありました。「雨ニモマケズ」や「銀河鉄道の夜」、「イーハトーブ」は賢治の作品です。

佐々木ミヨ子さんは、ご主人と娘夫婦、孫2人に母親の7人家族で、ご主人は機械製造会社に勤め、娘たち夫婦はそれぞれ公務員として勤めています。

ご主人は朝夕や土日の休みの日には手伝ってくれますが、基本的には農業はミヨ子さんと母親の2人で行い、牛の世話はミヨ子さんが主体となっています。

転 機

平成6年の冬、それまで牛を飼っていた父



写真-1 ガンバルかあちゃん 佐々木ミヨ子さん



写真-2 自慢の母牛

親が突然倒れて亡くなりました。それを機にわが家の今後のあり方を話し合いました。その結果、ご主人には今まで通り勤めてもらうこととし、水田作付けも従来通り続けることとしました。

牛は野菜や他の作目よりも収益が期待でき

表－1 経営の推移

年次	作物構成等	頭数	経営の推移
S. 55	繁殖雌牛	2	牛舎新築、増頭
H. 6	肥育 繁殖雌牛	2 6	父親が亡くなり、農業部門を引き継ぐ
H. 9	ハウス、パドック兼牛舎	8	増頭により、本来の牛舎がせまくなる時もある（分娩時など）、ハウス牛舎とパドック兼用で有効活用している
H. 12		10	ふじくら号（父親・第5夏藤）の育種価が高いため、種雄牛造成の交配対象となり、平成14年までに3頭の雄（種雄牛候補牛）を分娩する
H. 14	繁殖雌牛	11	6頭子牛出荷のうち2頭が県の種雄牛造成に選定された。台風の影響により、草がとれないため、購入飼料費がかさんだ
H. 15		8.2	初孫生まれる
H. 16		10	2人目の孫生まれる。住居新築中



写真－3 粗飼料の主体となっている畦畔草



写真－4 転作田での牧草

るのでは、と考えたことと、農協の担当者からも「オレたちができることは何でも協力するから、牛は無くさないで飼え」と言われたこともあり、続けて飼うこととしたそうです。また、畦畔草の利用面積や転作田での牧草生産も十分にあったことも継続する理由となりました。

しかし、実はこれが悩みの始まりでした。

牛飼いへの挑戦

ミヨ子さんは、それまでは特に牛が好きと



写真-5 パドックを併設している牛舎



写真-6 ビニールハウスを補強して使っている簡易牛舎

か嫌いとかということもなく、子どものころから父親が飼っていた牛を見て育ち、子牛はかわいいな、とか大きい牛は怖いな、という程度であったそうです。

むしろ、ミヨ子さんの娘さんが、わが家の牛が病気になり、家族の者がみんなで心配する中、獣医さんによって快復したのを見て、獣医さんてすごいな、獣医さんになって病気の牛を治してあげたい、と獣医師を志し、現在では獣医師として公職に就いています。

さて、牛の世話をはじめて、母親の指示通りに動くだけでは毎日が分からないことばかり、それまで父親が牛の世話をしているところを見たり感じたりしていたものとは大違いでした。

母牛の分娩の介添えが怖くて子牛の足が出ている状態を見るだけで気分が悪くなり、トイレに駆け込むことも何度もありました。また、生まれた子牛が呼吸しているのだろうか、立てるのだろうか、ちゃんと乳が飲めるのだろうか、など心配で分娩時には大変なストレスとなり、気分が悪くなってトイレに駆け込

むたびに、「逃げるな」と母親に叱られたといえます。

その後も、子牛が発育するにしたいが、コクシジウム、白痢などに悩まされましたが、牛舎や牛の衛生管理の重要性に気が付きませんでした。また、母牛を急性肝炎で死なせ、続いて子牛を死なせ、落ち込んでいるときに業者の勧めでサプリメントを使い始め、以降さまざまなサプリメントを多用したにもかかわらず、結果が出せず経費だけが嵩んだこともあったそうです。

牛への接し方でも、自分自身が牛が怖いと思っていることが牛に伝わり、ボロ出しや引き出し等の際、蹴られたり踏まれたり。蹴られて肋骨を折ったこともありました。

奮 闘

母親から真に手取り足取り教わり、農協担当者や周りの仲間からも真剣に教わりました。また、ミヨ子さんは冬季間は比較的時間



写真-7 太陽光に近い蛍光灯を使用（輸入品）



写真-8 飼料庫もビニールハウスを利用

に余裕があったことから、11月から3月までの間、酪農家へ半日の手伝いに行きました。この酪農家のI農場で、実践しながらさまざまな知識や技術の修得をすることができました。

ある日、酪農家で乳牛の分娩に立ち会われました。分娩がはじまり、子牛が大きすぎるのが分かり、引き出すことになりましたが、経営者と手伝いのミヨ子さんと2人しかおらず、しかもミヨ子さんは分娩に立ち会った経験がほとんどありません。

そこで、経営者が外からトラクターで子牛の足を引っ張り、ミヨ子さんが母牛の側でその実況を大声で外の経営者に知らせる、ということになりました。引っ張られている状況を大声で伝えていたら、「それでは分からん、手を入れろ、早く手を入れて確認しろ」と有無を言わせない言葉が飛んできます。手を入れる、気持ち悪い…。やっと子牛の顔が出てきたその時、経営者が「気をつけろ」と叫んだ瞬間、一気に糞が飛び出し、頭から糞をあびせられました。以来「クソ度胸がつきまし

た」とミヨ子さん。

酪農家では子牛の離乳が早く、以降はほとんど人の手によって育てられることから、子牛や育成牛が人なつっこく体にすり寄ってきたり、いきなりお尻を突き上げられたり仕事にならないこともあったということです。

ミヨ子さんの家では、父親が牛を飼っていた当時から、分娩直後の母牛に対し、牛を慰労する意味でバケツに自家製のミソとフスマを溶かした汁を飲ませています（分娩で頑張った後にはノドが乾くだろうから、ということのようです）。

牛が怖くても、ミヨ子さんは牛に対する優しさは父親から受け継がれているようです。

取り組み

1. 分娩に向けての対応

分娩前1ヵ月ころから母牛には強肝剤を使用し、分娩予定日1週間前から、1日1回体温を測ります。普段は、39℃ぐらいですが、



写真-9 たい肥舎



写真-10 牛舎周囲の花壇、目でも環境保全

分娩が迫ると38.5℃に下がり、その下がった時点より概ね24時間以内に分娩することが多いことから、分娩対応が容易にできます。

また、最初の破水からおおよそ2時間ぐらいで分娩することが多く、その間、手を入れて四肢や頭の位置などを確認し、逆子の場合には獣医師に連絡することとしています。

分娩と同時に、生きているかどうか、立てるか、乳を飲むか（初乳はできるだけ早く飲ませたい）、便の状態などを確認します。

分娩後、初乳を出さないときには、I酪農家より初乳をもらってきて与えています。

2. コクシジウム、下痢などへの対応

子牛が発育するにしたいがい、コクシジウムや下痢などに悩まされたことから、牛舎内の衛生対策として生石灰を溶かして、刷毛（ハケ）で牛房を中心に定期的に塗り、牛舎の衛生に努めています。また、併せて牛房内を乾いた状態に維持するよう努め、牛舎入口にも消毒槽を設けています。

コクシジウム対策として、生まれて10日目

ぐらいで予防剤を使い、現在は下痢もコクシジウムも出していません。

3. サプリメントの見直し

サプリメントを以前は朝夕に5種類も使った時もありましたが、農協担当者や酪農家のご主人より、良い草を十分与えればサプリメントなんかいらない、経費の無駄と教えられやめました。

ミヨ子さんの自給飼料の主体は、十分な生育管理ができない畦畔草と転作田の牧草であることから、I農場での手伝い賃（労賃）をすべて良質の草で支払ってもらい、それを牛に与えています。

4. 放牧の利用

約50～60km離れた雫石町の牧野に夏季放牧を行っています。分娩の近い牛や離乳前の牛は残して、他の牛は放牧するよう努めています。その結果、牛が丈夫になり、発情や種付けも良くなりました。また、水田等農繁期に牛の世話が減るので、放牧は省力管理に欠



写真-11 住居と牛舎の全景

かせません（水稲の秋作業が終わった後に牛が帰ってきます）。

5. 発情への対応

分娩後10日ころにくる発情をもとに、繁殖板にメモをし、日数計算をして発情を逃さないよう努めています。ただし、50日目ぐらいたっても発情が不鮮明な牛は獣医師に相談することになっています。

6. 環境改善

牛舎内の改善として「明るさ」による受胎率の向上に取り組んでいます。基本的に、舎内全体を明るくし、日光に近い蛍光灯（輸入品）に替え、換気を良くし、衛生対策も含め環境の改善と受胎率の向上に努めています。

また、住居の入口やたい肥舎前を花壇で飾ることによって、目でも臭いを和らげています。

7. 低コスト牛舎で増頭

毎月子牛1頭出荷を目標として、県単事業

を導入し低コスト牛舎（ビニールハウス型）を建て、子牛や育成牛を移動することによって既存の牛舎で増頭を図りました。

また、冬期間は積雪でハウスが潰れることもあることから、自らでハウス内に支柱を施し、ハウス構造の強度を図り、併用してハウス内に繋用の枠を設け、子牛や育成牛が伸び伸びと育つ環境を作っています。

上記の取り組みに大きく影響を与えたのは、ミヨ子さんが手伝いに行った酪農家の存在です。その酪農家では経営・管理・衛生などほとんどのことを自らで対応していることに驚き、以降さまざまな場面で折あるごとに教わったことが牛飼いの自信に繋がっているといいます。

循環型農業

もともと佐々木さんの農業の基幹は水稲であり、繁殖牛を飼ってからはたい肥の大部分が肥料として水田に投入されてきました。

繁殖牛頭数が少なかった時は、たい肥と畦畔草とのやりとりでありましたが、現在では水稲（米）も有機米の生産が中心であるため、できるだけたい肥を投入しています。

水田からは、稲ワラはもちろん畦畔草、あるいは転作田での牧草生産により、放牧時以外の粗飼料が確保されています。また、たい肥舎からの排汁は尿溜に溜まり、これをたい肥舎の前にあるアスパラガス畑に散布し、生

産に一役買っています。

地域では、遊休地や休耕田も増えてきていることから、将来頭数を増やしても粗飼料基盤は十分にあり、それらを活用することが地域農業への貢献と考えています。

部会活動

地元農協の和牛婦人部会に参加し、牛の飼いや方、見方などさまざまな講習・研修会にも参加し、知識の向上に努める傍ら、交流会などにも積極的に参加しています。

県内を2分する婦人部研修会には、200～300人の会員が集まり、研修後は単協部会ごとの対抗で大演芸会が開かれ、ミヨ子さんはガンバルかあちゃんぶりを、ここでも遺憾なく発揮しています。

また、演芸を楽しむだけではなく、隣同士で牛飼い談義にも熱が入ります。

今後の目指す方向

佐々木ミヨ子さんの経営の基本的考え方は、今までどおり牛の面倒は自分が中心となり、娘夫婦やご主人には農外で収入を得るいわゆる兼業経営を当面は続けることとしています。将来の計画は、ご主人が退職した後、施設整備を含め規模拡大を図りたいとしています（夫婦で毎日牛飼いをすることを楽しみ

にしているようです）。

また、年齢相応の体力を考えた農業経営を目指し、夫婦でさらに飼養管理の徹底や改良を含む育種価の向上、省力管理と生産コストの低減を図り、今はそこそこの収入が確保されているものの、これからは安定的・計画的に収入を確保できるよう取り組んでみたいといっています。

終わりに

ほとんど牛に触ったことのなかったミヨ子さんは、わが家の経済を考え、家のこと（農業は）自分がやり、ご主人と娘夫婦は農外にと決め、周りの人たちに支えられながら自らも発憤努力し、ときどきは開き直って頑張っ

てやってきました。
かわいい孫2人に囲まれ、そして近い将来「ガンバルかあちゃん」から、「父ちゃんと一緒にガンバルかあちゃん」を目指すミヨ子さんを見守っていきたいと思っています。

（報告者：岩手県畜産協会経営支援部長・
総括畜産コンサルタント）

おらが故郷の

経営自慢

中央畜産会の刊行図書

●月刊誌『畜産コンサルタント』



創刊以来40有余年、畜産総合誌として数々の話題、問題の提起をしてきました。経営、技術、流通、時事など、毎月特集を組み問題点の掘り下げと追究を行い、豊かな内容とわかりやすい情報を提供しています。

購読料 年間 9,828円(送料とも)
半年 4,914円(送料とも)
1部 735円(送料84円)

●日本飼養標準シリーズ

—農林水産省農林水産技術会議事務局編—

家畜を飼うなら、その大きなよりどころとなるのが飼養標準であることはご存知のとおりです。飼養標準は家畜改良の進展、飼養条件の変更にともなって改訂がなされてきました。本シリーズは最近の知見を折り込んだ最新版です。

◆日本標準飼料成分表(2001年版)

A4判 256頁 飼料成分データのCD-ROM付
2,700円(送料380円)

◆日本飼養標準・肉用牛(2000年版)

B5判 221頁 CD-ROM(飼料計算シート等)付
1,900円(送料340円)

◆日本飼養標準・乳牛(1999年版)

B5判 189頁 CD-ROM(飼料計算シート等)付
1,600円(送料340円)

◆日本飼養標準・豚(1998年版)

B5判 121頁 1,218円(送料310円)

◆日本飼養標準・家禽(2004年版)

A4判 124頁 2,100円(送料340円)

◆日本飼養標準・めん羊(1996年版)

B5判 108頁 1,670円
(送料310円)

◆日本飼養標準・豚

(英語版・1993年版要約)

B5判 27頁 1,890円
(送料240円)



●堆肥化施設設計マニュアル



堆肥化の基本から、装置・機械、建屋の構造、施設規模の算定、設置計画と管理運営、堆肥の利用までのガイドラインを示したものです。堆肥化施設建設にあたっての必読の書。

A4判 250頁 3,500円(送料340円)
堆肥化施設規模算定体験プログラム
CD-ROM付き

●家畜排せつ物処理の実際



堆肥化施設導入のポイントから施設設計、流通、処理・利活用まで、研究者たちの解説、助言等をあわせて、全国で実際に稼働している牛、豚、鶏の家畜排せつ物処理施設38事例を取り上げ、それぞれの効果や課題も詳しくまとめています。

家畜排せつ物処理施設整備に必携の書です。

B5判 140頁 1,050円(送料310円)

●牛トレーサビリティ制度の実施について

(資料編・解説編)

資料編では、トレーサビリティ制度の情報の管理および伝達に関する概要、制度実施の手引き、流通段階の概要、DNA鑑定、農家向け届出マニュアルについて、解説編では農林水産省各課担当官の説明が取りまとめられています。

A4判 資料編258ページ、解説編48ページ、2分冊定価1,500円(送料450円)



●畜舎・堆肥舎の建築設計に係る告示・解説

(解説編・ポイント編)



畜舎・堆肥舎の建設には多額の投資が必要となり、その投資の回収にも長期間を要し、経営の安定性に大きな影響を及ぼします。コスト意識に基づいた合理的で適切な畜舎を建築するために、その詳細を解説しています。

A4判 解説編236頁、ポイント編82頁2分冊 2,100円(送料340円)

●畜産施設機械要覧 2003年版

飼料用施設機械、各畜種の飼養管理施設、環境整備施設機械、畜産関連機械・資材など、畜産経営における各種の作業・場面に必要な施設機械器具のカタログ集です。

掲載施設機械器具類の小売標準価格が表示され、購入計画の目安になります。

B5判 234頁 2,100円(送料290円)



◎お求めはもよりの畜産会または下記へ。

ご注文はFAXまたはEメールで。書名、冊数、お名前(会社名)、お届け先、電話番号を明記のうえ、ご注文下さい。FAX以外はお電話にて承ります。

ご注文承り後に郵便払込用紙を同封し、お届けいたします。なお、品切れの際はご容赦下さい。

(価格はいずれも消費税込みです。)

(社)中央畜産会 事業第一統括部 (情報業務)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-26-5 (虎ノ門17森ビル)

TEL 03-3581-6685 FAX 03-5511-8205 E-mail book@cali.lin.go.jp

URL http://jlia.lin.go.jp/

あいであ & アイデア

吊って、削蹄—ホイルローダを活用して安全削蹄

松瀬 一馬

「さて、楽に削蹄する方法はないものか」長崎県北松浦郡福島町で繁殖和牛を飼っている吉田克己さんは、削蹄のたびに考えた。経費もかかるし、削蹄師を頼むより自分でできないか。思いついたのがホイルローダで牛を吊り上げてしまえば「牛は動けないのではないか」、ということ。昔から自分で作ることが好きで、これまでに牛の鼻通し機などを作ってきた。手元に養豚をやっていたころに導入したホイルローダがあったことも幸いした。

準備した材料

つめ：ダンプカーのスプリングを利用、車の解体屋から入手した。

消防ホース：牛の胴巻きとして使う。近くの消防団から譲ってもらった。

溶接機：自己所有のものを利用。

ロープをかける鉄パイプ：ロールベアラの部分で半分に切断したもの。

ロープ：ありあわせの丈夫なもの。

これらの資材はほとんどを譲り受けたり、自家にあったものを利用できたので費用はかかっていない。

作り方・使い方

写真にあるとおりで、ローダのバケット部分は取り外しておく。丈夫な鉄板にローダのアームへの着脱を行う部品を溶接、さらにダンプのスプリングを溶接してフォーク状のも



写真-1 宙吊りされた牛



写真-2 削蹄中もおとなしい



写真-3 鉄板の裏側からみたところ

のを作る。このつめに半切したロールペーラの部品をロープで固定する。この部品の穴に鉄パイプを通し、鉄パイプの先に消防ホースに穴を開けて差し込む。「丈夫だから破れない」そうだ。吊り上げるときは片方を外して牛の胴の下から回す。ホースを鉄パイプに差し込み、徐々に吊り上げれば保定できる。吊り上げ機取り付けや取り外しは地面に下ろして行う。吉田さんは「牛は吊り上げて締められて苦しいという感じはないようだ」という。「自分で削蹄をすれば経費の節約になるのでいいですね」と話している。

(筆者は長崎県北部農業共済組合中央支所・広報担当)